



大阪部会(第 66 回)

日 時: 2019 年 12 月 7 日(土) 18:00~20:15

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 66 回の出席者は 17 名。

(1) まず、篠原総一代表(同志社大学名誉教授)から、今後予定されている経済教育ネットワークの活動が紹介された。12 月 26 日東京、1 月 18 日沖縄、3 月 21 日札幌で、それぞれ経済教室の開催が予定されている。

(2)李洪俊氏(大阪市立大和川中学校)から、「高校入試の新動向と中学校における授業改善」が報告された。前回大阪部会の「全国公立高校入試問題(2019 年実施)について」として報告された入試問題の分析を、授業改善につなげるという観点から再構成したものである。まず前回と同様に、入試問題例をあげながら「学習指導要領が目指している学習内容と授業改革がどのように入試問題で問われているにかという視点で」入試問題を分析した結果、5 つの特徴をあげている。記述式が増えている、最近の話題や近未来予測がとりあげられている、グラフや最新の統計資料が使われている、リード文・説明文が長い、三分野融合や教科横断的な出題が見られる、の 5 つである。その分析をうけて、文章や図表の読み込み、問題解決型学習などの授業が提案された。この内容は、12 月の慶応大学における経済教室で報告される。

(3)奥田修一郎氏(大阪教育大学等)から、新たな「公共財ゲーム」が 3 つ提案された。1 つめは、側溝の落ち葉掃除に 4 人がお金を出し合うという場面設定、2 つめは、以前から住む A さんと後から隣に引っ越してきた B さんとの間で、落ち葉掃除のお金をどう分担するかという場面設定、3 つめは、4 人の住民が、消防活動によって休日の余暇時間を消防活動にどうあてるかという場面設定である。公共財ゲームにおいては、すでにこれまで、ゲームを繰り返すかどうか、参加者の人間関係、互いの意思をどの程度知っているか、などに結果が左右されることが分かっている。奥田氏からは、皆が出し合ったお金がどの程度みんなの利益になるか(オリジナルな中川マンションモデルにおける 0.5 という数値の大きさ)によって結果が左右されることを確認するのも、生徒にとって興味深いという点が指摘された。

(4)山本雅康氏(奈良学園中学校高等学校)から、「消費者教育推進のための「社会への扉」活用研究授業」の内容が紹介され、成果が報告された。この研究授業は、消費者庁発行の「社会への扉」を授業に活用したもので、家庭科(過程基礎)の授業案と、公民科(現代社会)の授業案が紹介された。続いて山本氏自らの現代社会の授業例から、消費者問題と消費者保護の学習プリントが配布、説明された。2022 年に民法の成年年齢が 18 歳に引き下げられ、その時点で 18 歳以上 20 歳未満の人がいっせいに成年に達することから、消費者問題が大量に発生することも考えられる。山本氏からは、生徒に消費者の権利と義務を理解させ、自ら思考・判断することの重要性は高まるのではないかと指摘



があった。

(5) 大塚雅之氏（三国丘高等学校）から、「行動経済学で考える労働の授業」が報告された。前回の部会で、奥田氏が報告した「労働問題に着目した中学校公民的分野の授業開発－新しい働き方を実現するための手がかりに－」にも触発された授業案である。つまり、従来、授業での労働分野の扱いは少なく、扱ったとしても企業批判や制度不備を指摘するものが多かった。そうではなく、労働者の目線から、労働者はどのようなことを考え行動するのか、行動経済学の知見を活かして考えてみようとした授業である。まず、人は必ずしも合理的ではなく、先入観や思い込み、特定の情報に引っ張られやすいことを、行動経済学の問題例を使って確認する。労働現場では、それらの非合理性が残業の多さや女性差別につながる可能性がある。それを理解した上で、働き方をより正しい方向に導くためのナッジ（選択構造を変えることで行動を促す手段）を生徒自身に考えさせている。奥田氏からは、生徒から出されたアイデアは、すでに大企業で実施されているものもあり、実際の企業現場の動向まで調べさせればよいとの助言があった。

(6)阿部哲久氏（広島大学附属中学校高等学校）から「「見方・考え方」からつくる中学校公民的分野「経済・金融」の授業づくり－「希少性」で教育実習生の授業はどう変わったか－」との報告があった。新学習指導要領に「希少性」と「分業と交換」が加わったことで、経済の内容に関わる授業作りがしやすくなったという内容の報告である。学生が作成した需要と供給、金融、比較優位などの学習指導案も配布され、「希少性」を意識することで、単なる知識獲得の授業ではなく、「見方・考え方」を身につけさせる授業に変わったことが紹介された。

(7)丹松美代志氏（大阪学びの会代表など）から、社会科NAV I（日本文教出版）が配布され、子ども自身が意欲をもって課題を追求し、自分の言葉で表現するような授業作りについて紹介された。

(8) 関本祐希氏（市岡高等学校）から、地理および政治経済の授業プリントが配布され、年金の仕組みや利点欠点について、理解を確認するための課題が投げかけられたが、今回は議論する時間がとれなかった。

（文責 野間敏克）

次回開催予定：2020年2月1日（土）、時間は18:00～20:00、場所は未定。